

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2770104848		
法人名	社会福祉法人南の風		
事業所名	グループホームアル・ソーレ (こもれび)		
所在地	大阪府堺市堺区甲斐町西2丁1番15号		
自己評価作成日	平成 27年 3月 10日	評価結果市町村受理日	平成 27年 6月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvoCd=2770104848-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 4月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝いいたします」と理念にもあるように、その人らしさとはどういうことなのかというとても難しいテーマに対し、それぞれが考え、利用者を理解する努力を日々心がけています。生活の場では共に暮らすを意識し、又複合施設ならではの特徴をうまく活用した、併設しているからこそ協力し提供できるサービスや、家族、地域を巻き込んでの行事にも積極的に取り組んでいます。利用者と家族の安心と楽しみを今後も継続して提供させていただくことを目標にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体にもつ社会福祉法人が運営する、2ユニットのグループホームです。特別養護老人ホームやデイサービス等を併設した複合型施設で、ホームは建物の5・6階にあります。ホーム内には木をふんだんに取り入れ、家庭的落ち着いた雰囲気になっています。「その人らしい人生を全うしていただけるよう私たちはプロとしてお手伝いいたします」を理念に掲げ、職員は利用者一人ひとりの「その人らしさとは何か」を日常的に意識し、職員間で共有しています。協力医療機関との連携体制も構築されており、併設特養の看護師の協力を得て、夜間や緊急時対応についても体制が整備されています。職員と家族の連携も良好で、家族からは「職員は明るくて話しやすい」と評価されており、クリスマスや納涼祭、スイーツバイキング等のイベント等も好評を得ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝いいたします」を理念に掲げ、地域の資源を活用しながら、地域に支えていただき、又、地域に貢献できるような取り組みを他サービスと協力して取り組んでいます。	法人と共通の理念は、家庭的な雰囲気配慮しながら、玄関やリビングに掲げています。ホームでは「その人らしさ」を念頭におき、職員の原点として支援しています。その人らしさを支える実践として日頃、知り得た各利用者の人柄や思いを定例会毎に共有し、具体的なものにして、実践しています。また、「地域との共生」を第一の特徴として、パンフレットに記載しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のふれあい喫茶への参加や祭りやイベント・地域掃除への参加。又、逆にホーム行事への招待やボランティアとして、お手伝いに来ていただけるなど、良い関係でご協力いただいています。近所の保育園との交流も開始し、Xmasなどのイベントも行っています。	ホームは日頃より、近隣の店舗と交流を図っています。また、大規模な季節行事の際はPRや参加の声かけなどを積極的に行い、近隣住民にも協力を得る等、行事を通して交流しています。ホームを地域交流の場として提供し、利用者が地域の人たちと一緒に楽しむこともあります。近隣の保育園とも交流があり、近くの公園で日常的に過ごしています。また水害時には、ホームが保育園の避難場所となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	ニーズがあれば、居宅、地域包括と協力し、認知症サポーター養成講座を開催、又、堺市・堺区のグループホーム連絡会に所属し、地域包括や保健センターなどと協力した認知症パネル展・講習会などの啓発活動、地域包括主催で、家族会への参加協力、にも取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域包括との現状報告、取り組みや課題などでのアドバイスをいただくなど、参考にさせていただいています。又、家族や利用者の方にも参加して頂き、そこでの意見をもとに日常生活の取り組みに役立てています。	運営推進会議は、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員等が参加し、2カ月に1回開催しています。外部評価結果についても、議題に挙げています。ホームからは現状や予定等を報告し、また地域の行事を得るなど、情報交換を行っています家族より、行事についての提案があり、検討する等、意見を反映しています。	運営推進会議の規程・規約を作成し、会議を開催しています。今後は、出席者の秘守義務について、規程に記載することが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や連絡会などでの相談、情報交換をするなど、又、地域の見守りネットにも協力しています。	市のグループホーム連絡会に所属し、交流を図っています。また、区が開催する認知症の啓発事業に協力しています。地域包括支援センターと協力し、近隣の小学校で認知症を理解する劇を毎年行っています。認知症の方のひとり歩きの見守りネットに参加し、早期発見や安全確保に協力しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>施設内の勉強会を通じて、知識と方針など含めた意識統一を図り、いかに利用者が穏やかに安定した生活を送っていただけるかを考え、職員一人一人が自覚を持ち取り組んでいます。又、家族の思いに耳を傾けることができるよう、コミュニケーションの機会を大切にしています。</p>	<p>身体拘束をしないケアを宣言しており、身体拘束防止マニュアルも作成しています。年1回、全職員が勉強会を受講し、身体拘束についても学んでいます。また、月例会でも利用者の「その人らしさ」について話し合い、言葉遣い等についても検討しています。日中、玄関やユニット入口、エレベーターなどを開錠しています。職員間の連携と工夫により、拘束をしないケアに取り組んでいます。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内の勉強会を通じて、知識を深め、いかに利用者が穏やかに安定した生活を送っていただけるかを考え、各職員が自覚を持ち取り組んでいます。又、家族の思いが汲み取れるよう、気軽に相談しやすい雰囲気心を心がけています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在数名の利用者がそれぞれのニーズで成年後見制度を利用されています。家族からの相談なども含め、NPO団体からの協力をいただき、その都度指導、助言をいただいています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項・契約書などの書類は、見学時に事前にお渡しし、当日にも再度説明と質問を受け付け、理解と協力を得ています。サービス利用に対して、家族・利用者の不安を少しでも軽減できるよう、ゆっくりとお話を聞かせていただいています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々のかかわりの中で、気軽に相談していただけるよう、面会時には近況報告を兼ねてお声掛けをさせていただくなど話しやすい、聞きやすい環境に心掛けています。</p>	<p>職員は、各利用者の担当を持ち、日々の関わりの中で、利用者や家族から要望や意見を聞いています。また、月1回、利用者の生活状況や健康状態を記載した「利用者連絡帳」を送付し、その都度家族の意見も聞いています。職員は、家族が面会時に声をかけやすいよう配慮しています。「食事中はテレビを見たい」と言う利用者の意見により、テーブルの位置を変更した事例があります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のフロア会議を行う際は、事前に議題を集めておき、時間を有効活用できるように心掛けています。又、申し送りの場を活用し、急な事態にも相談、対応できるように努めています。それらを運営会議にも反映させています。	管理者は、日頃から意見を出しやすい環境を作っています。月1回のフロア会議は、議題を全職員へ事前に知らせ、参加できない場合も意見が出せるようにして、会議での意見を共有しています。また、毎日の申し送りでも意見交換を行っています。緊急性のあるものは職員間で話し合い、その都度臨機応変に対応しています。会議で提案された意見は、常に職員間で共有し、日々のサービスに反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験や能力に合わせた研修への参加。講師を招いての勉強会や、施設内又、グループ施設間での事例発表会など、職員のニーズや必要性など内容に応じたものを取り入れています。職員面談などを通じて、自己評価も含めたコミュニケーションを図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に合わせた研修の参加と、施設内の勉強会委員を中心に、計画を立て、スキルアップに取り組んでいます。又、資格取得に対して、講習会を開くなど、それぞれの意欲にサポートできるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 大代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の活動や、大阪認知症高齢者グループホーム協議会への加入などで、他施設との情報交換や取り組みを参考にさせていただきながら、自施設のサービス向上に役立っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に対しての理解、納得から利用者・家族の不安や疑問に対してゆっくりと話し合いの場を設け、家族にできる限りの協力で寄り添っていただくようお願いしています。必要に応じてご家族にしばらく泊り込んでいただく提案など少しでも安心して過ごしていただけるように状況に応じた援助を行う準備をします。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての理解、納得から利用者・家族の不安や疑問に対してゆっくりと話し合いの場を設け、家族にできる限りの協力で寄り添っていただくようお願いしています。必要に応じた臨機応変な対応で少しでも安心して過ごしていただけるように状況に応じた援助を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの把握に努め、かかりつけの病院やドクターなど、これまでのなじみの関係を大切にしていられるように家族の協力をいただきながら継続してお手伝いができるように心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすということを常に心がけ、日々の関わりの中で自己選択・決定の機会を多く持つように心掛け、興味を持っていただけるような取り組みに心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も共に暮らすというかわりの中で、利用者に対しての相談や認知症に対してともに参加できる講習会への誘いなどに取り組んでいます。又、ホームの余暇活動などの取り組みや日帰り旅行の参加、行事に対してボランティア協力をいただくなど、家族からもお手伝いできることがあればお願いしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>かかりつけの病院、美容室、好きなお店、行きつけのレストランなど家族の協力もいただきながらお手伝いできるように努めています。</p>	<p>職員は、理念に基づき「利用者がその人らしい生活が全うできる」を大切にしてい、日々の支援を心がけています。家族の協力を得て、行きつけの美容室に通う利用者がいます。利用者は、「いっちゃん喫茶」の愛称で親しまれている地域の「ふれあい喫茶」に参加し、地域住民との交流を図っています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>それぞれの認知症状の中で、集団生活のストレスは所々で考えられるものの、活動などを通じて自然なかかわりが持てるように工夫しながら取り組んでいます。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>関係施設、病院など、サービスが移っても面会に訪問させていただいています。大きな行事には毎年手伝いの声を掛けて下さる等、良い関係でお付き合いさせていただいています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの中でも、生活歴や環境、なじみを重要視し、日々の関わりの中での気づきや、利用者の思いを大切に、家族・職員間での情報の共有に努めています。	職員は、日々の会話の中で利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。また、聞き取った思いや意向は職員や家族とも共有し、本人本位の支援を心がけています。三味線を教えていた利用者と職員とコラボして演奏し、全員で歌を楽しんだことがあります。家族、職員の協力のもと、建物の1階で2カ月に1回、利用者主体で開く「アルちゃん喫茶」では、メニュー等も利用者が考え、本人ができる事を役割分担できるように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントの一部をお渡しし、なじみや好みなど、家族間で相談しながら記入していただけるようにして情報をいただいています。その際にはなぜその情報が必要なのかも説明を加えるように心掛け、理解を求めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での思いや変化に対して気づきを大切に、記録に残し、情報を共有しながら、利用者の状態把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>事前の情報収集をフロア会議の中で意見をまとめ、家族にもその都度確認し、思いや意向を汲み取りながら計画作成に反映させるよう努めています。</p>	<p>計画作成担当者は、月1回のフロア会議で利用者一人ひとりの情報を収集し、職員の意見を聞いています。6か月毎にアセスメントを実施し、状況の変化があった場合はその都度見直しを行い、計画の作成を行っています。カンファレンス、モニタリングは毎月実施し、6か月毎の介護計画作成時にはモニタリングの見直しを行っています。管理者は、年間キャリアパス計画を立て、月1回勉強会を行っています。職員の介護力向上に努め、介護計画に基づいて日々のケアができるように心がけています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の関わりの中でみられる変化に注意し、言動、行動、体調の変化など、皆で記録に残し、共有しながら必要な対応が素早くできるように心掛けています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>複合施設内の協力と、関係施設などとも協力体制ができており、必要に応じて柔軟な協力を受けることが出来ています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のニーズに合わせて、近くの商店やお寺、なじみの花屋さんなど、出かけています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の定期的受診、緊急時の対応、その他必要に応じた医療を受けるにあたっての相談と確認を行い、家族の協力のもと、かかりつけ医との連携も大切にしています。	職員は、入居時に利用者や家族の要望を聞き、これまでのかかりつけ医が継続できるように支援しています。関係医療機関とは密に連携を取り、「緊急時用医療カルテ」も準備緊急時にも適切な医療を受けられるよう、支援しています。看護職は、日々の利用者の健康管理を行っています。必要時は他部署の看護師とも連携し、利用者の健康状態についてその都度、相談できる体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署と兼務の看護師が定期と随時に訪問してくれ、必要に応じた処置や確認を医師との連携のもと行ってきており、職員も安心して相談できています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的な面会と、看護師や医師に状態の確認を行い、退院に向けての助言や指導などいただきながら早期に退院できるように支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の看取りに関する指針をもとに説明し、同意をいただき、実際に対応が必要になったときは、家族、医師、看護師、栄養士の連携のもと、援助の方向性を確認しつつ、できる限りの必要な援助に努めています。又、利用者にとって必要な支援が受けられる環境も視野に入れ、より良い方向に支援できるよう努めています。	重度化や終末期に向けては「看取りに関する指針」を作成し、入居時や利用者の状況に応じて家族に説明し、同意を得ています。職員は、「死生論・精神論」「救急時対応」等の研修を受講しており、看取りについてもホームでできることを認識し、共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や講習会で心肺蘇生法や AED の使用方法を学び、ホーム内での緊急マニュアルをその都度見直し、確認を行い、実際の対応に備えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>施設全体で災害対策委員会を設置しており、マニュアルの作成と見直し、様々なパターンを想定した年2回の消防立会いの避難訓練、南海地震を想定した備蓄などの準備、停電時の確認など、世間の情報を確認しながらその都度考えられる状況に応じた備えができるように心掛けています。又、地域のグループホーム連絡会での情報交換と取り組みの共有を行い、近隣の保育園児の避難場所の協力体制等も整えています。</p>	<p>ホームは、特養やデイサービスを併設する建物の5・6階部分にあり、施設全体で災害対策委員会を設け、災害時対策のマニュアルを作成しています。避難訓練は年2回、建物全体合同で行い、うち1回は消防署の指導のもと行っています。自主訓練は火災だけでなく、水害など様々なパターンを想定して行っています。水害に備えて建物の上層部に非常用備蓄を保存し、最上階や屋上は一時避難ができるような工夫をしています。地域住民の協力を得ながらの避難訓練は、実施していない状況です。しかしながら、災害時に地域住民を避難場所として受け入れる体制はあります。また、近くの乳児保育園の避難場所として、受け入れる協力体制を整えています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄や入浴など、それぞれの状態に配慮しながら、1人1人個別に対応しています。サービスマナー・個人情報保護などの勉強会も取り入れ、意識の統一と確認に努めています。	プライバシーの厳守や個人情報保護については、運営規程や契約書に記載し、職員はプライバシーの確保やサービスマナーについての研修を行い、共通意識のもとに日頃の支援を行っています。法人全体で発行する「ぽっかぽか便り」の写真など、利用者や家族に配慮して掲載しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイムやおやつの中にはメニューを用意し、好みの飲み物を選んでいただいています。おやつバイキングの実施や、食事においても、気分や状態に対応できるように幅を利かせ、入浴は好きな時に入れるように準備しています。日常生活の中で自己選択・決定の場を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の予定を固めるのではなく、天候や気温、利用者の調子や気分に合わせて支援できるように、臨機応変ということを常に大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身支度援助だけでなく、お出かけや行事の際には違った気分に参加できるように化粧するなど、おしゃれを楽しんでいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好の調査を行い、献立によっては、別メニューの提供や、状態に応じた軟菜・一口・刻み・とろみ・ソフトなどの提供も行っています。メニューによっては一緒に調理を楽しみ、利用者の意欲に応じて家事動作も参加されています。	食事は、主食のみホームで炊いており、副食は法人の厨房で調理されたものを提供しています。利用者の状況により、とろみや刻み等、様々な形態の食事に対応しています。職員は同じテーブルで同じものを食し、食事中は見守りをしながら利用者との会話を楽しんでいます。毎月1日は「赤飯の日」として地域の風習を取り入れ、利用者が月の変わり目を感じられるように支援しています。職員は、法人の給食委員会のメンバーとして参加し、メニューや利用者の希望食など、意見交換を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてた献立のもと、摂取量の確認と、嗜好の確認を行いながら、管理栄養士・看護師・医師との連携のもと、アドバイスや指示をいただいています。水分補給には好みの物や、状態に応じて用意工夫をします。又、むせ込みを認める方に対してトロミを付けた物を提供する等、誤嚥に対する対応にも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやカーゼなどの道具を使い分け、利用者に応じた援助を行っています。希望者は毎週金曜日の歯科往診で口腔ケアとチェックを行い必要に応じて受診しアドバイスや治療を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、必要な排泄用具で援助を行い、状況を記録しています。可能な限り、トイレに座るということを大切に援助しています。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、支援を行っています。トイレでの排泄を基本として、自発的な利用者の訴えを優先した支援を行っています。また、ケアの中で利用者の行動に気を配り、定期的にさりげなく声をかける支援も行っていきます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況把握に努め、管理栄養士・看護師・医師との連携のもと、アドバイスや指示をいただき、乳製品やオリゴ糖の活用などで排泄を促し、悪化しないように早期対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるように準備があり、毎日入っている方もいます。又、毎朝、朝食後の一番風呂でなければという希望もあり、現状では問題ないため、対応させていただくなど、それぞれの生活パターンに応じて可能な限り援助しています。	入浴日は週に2～3回設定し、希望があれば毎日でも入浴できる体制を整えています。浴室は個浴で対応しています。希望があれば毎日入浴ができる体制を整えています。体調により入浴ができない方には、清拭や足浴、洗浄など、代替ケアで対応しています。季節浴なども準備し、利用者は好みで入浴ができるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごしていただいています。夜間眠れない時は、共有スペースでお茶やおしゃべりをして過ごしたり、日中に関しても状態に合わせて臥床時間を作るなどそれぞれのペースで過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用ファイルにそれぞれの服薬内容の一覧と、注意事項をまとめており、指示や変更に対しては申し送りです。都度確認しています。服薬漏れのないよう、チェック表で確認し、服薬に関して変化や問題が発生した時には看護師・医師に確認し早期対応ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字・カラオケの時間を月一回予定しており、それぞれ好みに応じて参加していただいています。その他秋の作品展に向けて、一年かけて様々な作品に取り組み、皆さんに見ていただくことを張り合いとしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	長距離、長時間の外出がなかなか困難になりつつある現状で、家族や地域の方の情報をいただきながら、近くの公園や施設、イベントを利用し、外出気分を楽しんでいます。又、個別の余暇活動に対して、得意、興味、好み、アプローチの工夫など職員間で情報を共有しながら取り組めるよう努めています。	天気の良い日には、近くの公園に出かけています。散歩時には、近隣の方から挨拶をされることもあります。また、近くの保育園児と交流の機会を持っています。職員は、外出の希望をされない利用者にも、ベランダや7階屋上での日光浴等、外気に触れる機会を作って支援しています。毎年の納涼祭やスイーツバイキングのイベントでは、1階や7階の会場への参加を楽しみにしている利用者がいます。今後、家族の協力も得て、日帰り旅行を行う計画があります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族と相談しながら、自己管理、見守りの管理など状態に応じた管理を行っています。買い物時には、支払動作を共に行うなど心掛け、援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	一階の公衆電話は自由に使っています。その都度希望に必要なお手伝いをしています。携帯電話を持っている利用者もいます。遠方の親せきからの手紙を代筆したり写真を添えたりしながらお返しし、関係を大切にしています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の掃除に加え、毎週木・金曜日には衛生日と設定し、キッチン周りの消毒や加湿器、ゴミ箱などの洗浄の日にあて、清潔を保つよう心掛けています。光・音・温度・湿度の配慮にも心がけ、居心地の良い環境作りに努めています。	食堂兼居間は、明るくゆったり過ごせるように工夫しています。トイレは各居室の側に設けており、利用者のプライバシーに配慮しながら支援できる造りになっています。壁には、利用者の笑顔の毎月の行事写真や利用者それぞれの特徴をつかんだ似顔絵の切り絵作品が貼ってあり、利用者はお互いに「よく似ているよ」と会話を楽しんでいます。居間や居室から見えるベランダでは、季節の花や家庭菜園が楽しめるように支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内には所々に椅子を配置し、居室以外にも落ち着く場所を見つけてもらえるようにしています。また、談話室や七階フロアにもゆとりの空間があり、面会者と気兼ねなくすごしていただけるように活用されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたなじみのものを持参していただき、なるべく住み慣れた環境を再現していただけるよう協力をお願いしています。徐々に必要なものを取り入れながら安心して過ごせるお部屋作りを一緒に行っています。	居室は洋室と和室があり、職員は利用者がこれまでの生活様式を継続できるように支援しています。それぞれの居室には、洗面台を設置しています。利用者は、自分で室温調整を行っていますが、職員は定期的に温度調整を行い、利用者が居室で快適に過ごせるように支援しています。タンス、椅子、テーブル、写真、ぬいぐるみなど、使い慣れた物や大切なものを持ち込み、利用者が自分らしく居心地よく過ごせるよう工夫しています。好みのベッドカバーを使用する方や、三味線を持ち込んでいる方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の変化に伴い、理解の状態に応じてそれぞれのスイッチに説明書きを加えるなど、工夫すれば自分のできることに對しても心がけています。段差を上ったの居室には手すりを付け加え、転落防止に家具を置きました。		